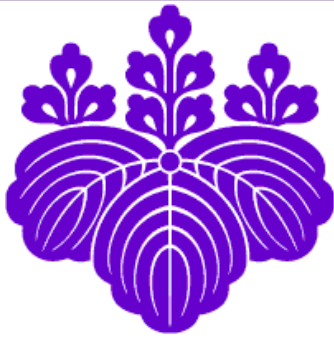




茗溪 かながわ

MEIKEI

NO.13

発行 神奈川茗溪会（旧 茗溪会神奈川支部） 発行者 大畑多津雄

平成 30（2018）年 10 月

新会長挨拶

変革の時を迎えた

神奈川茗溪会の会長就任にあたって

大畑多津雄 S五二教大数

時の経つのは早いもので、清水元会長がお亡くなりになって、二年が過ぎました。先日、先輩のご命日（十月十一日）に矢野前会長、望月副会長と共に、先輩のご自宅にお邪魔し、仏壇にお線香を手向けてまいりました。

茗溪の後輩と聞いただけで、無条件に全力で支援する。

後輩への熱い思いとエネルギーッシユな清水先輩のご存命の時、矢野先輩の後任になることを求められたことがございました。

一瞬、清水先輩のように対内的にも対外的にも自分にあそこまですり切れるものかという思いに包まれたことを思い出し、これから先の舵取りについて、ご支援とご教示をご仏前にお願ひしてまいりました。

また、会長代行として二年の間、矢野前会長のもとで神奈川茗溪会の活動に関わってまいりましたが、矢野先輩も目の前の課題を迅速かつ適切に処理され、神奈川茗溪会の確実な運営を果たしておられました。

そのような二人の先輩の取り組みを思い起こすにつけ、連綿とつながってきたこの神奈川茗溪

の流れを自分がしっかりとリードできるか不安ではありますが、会員の皆様のお力添えをいただきながら、山積する課題に確実に対応していきたいと思ひます。先輩諸氏のご指導・ご鞭撻よろしくお願ひいたします。

【課題】

- ・ 会員の拡充と組織の活性化
- ・ 教員中心の組織からの脱却

【対策】

- ・ 会員名簿の精査
- ・ 事務局の充実強化（若手登用）
- ・ 活動の活性化
- ・ 神奈川産業人会の立ち上げと活動の定着
- ・ 会報（年二回発行）

昨年度、筑波大学の卒業生で教職についた学生が四％、四十三名という現状にあつて、茗溪会本部は産業人の取り組みを強化して、組織の活性化を図ろうとしています。組織の存亡をかけて、これまでの教員集団としての同窓会から脱皮し、総合大学を卒業する多くの産業人を取り組もうとする動きは当然であると思ひます。そうした取り組みの動きも進め



中学校に来春赴任予定の祐松智紀氏（H28 筑）と談笑する川田孝一理事（s39 教大総農）と大畑会長。

ながら、これまで自分がやってきたことへの愛着と今日までの茗溪の歩みを思い、どうしてもその時代の教育をリードする教員の育成に携わりたいと考え、引き続き神奈川の教員を目指す筑波の後輩の進路実現に対しても尽力していきたいと考えています。

今日まで神奈川茗溪会を牽引されてきた川田理事が常日頃から仰つている「神奈川茗溪会の取り組みが全国から注目されている。だからしっかりと頼むよ。」の檄に少しでもお応えできるよう、微力ながら頑張つてやらせていただきます。皆様のご協力よろしくお願ひいたします。

若手の会・産業人倶楽部・若手教員（新泉組）の会が同時開催

若手の会が十一月十七日（土）『大陸』（横浜スカイビル九階）で開催されますが、そこに二つの会が合流します。

川田理事が委員長を務める組織委員会が産業人倶楽部を立ち上げ、七月に百余人を集めて発会式を行いました。神奈川の参加者が中道徹氏（企業担当副会長）を中心に、「神奈川産業人倶楽部」を立ち上げる動きを始めた。その会合を若手の会と合流して開くということです。

若手教員の会は研鑽会を兼ねています。神奈川の教育を牽引する人材となつてほしいという願ひからです。『新泉組』の由来は、教員採用二次試験対策を茗溪会館新泉の間で実施しており、その受講者のつながりという意味が込められています。茗溪本部とともに神奈川も新たな動きを始めました。

一步を踏み出しました。

第2回 茗溪・筑波産業人倶楽部

日時 12/15(土)13:00～16:30

場所 茗溪会館

参加費 4,000 円

申し込み先

一般社団法人茗溪会事務局

☎03-3941-0136

メール info@meikei.or.jp

ぜひ、ご参加ください (^_^)

矢野会長から大畑会長へ バトンタッチ

七月二十八日(土)、神奈川茗溪会総会が

横浜中華街の「ローズホテル横浜」で開催されました。

総会に先立って開かれた役員会には二十七名の役員が出席されました。その席で矢野会長が第二号議案「平成三十年度神奈川茗溪会役員(案)」を提案されました。会長任期の二年を終えたところで、矢野会長は会長職を辞し、次期会長に大畑会長代行を選出することを諮るもので、了承されました。新役員は次の通りです。

会 長

大畑多津雄 (s 52 教大数)

副会長

会長代行

加藤 充洋 (s 56 筑一社)

行政担当

小泉いづみ (s 51 教大数)

林 忠 (s 58 筑一自)

学校担当

出井 善次 (s 51 教院農)

佐藤 到 (s 57 筑三社工)

企業担当

山崎 紀彦 (s 53 教院農)

中道 徹 (s 58 筑大生)

地区担当

望月 正大 (s 51 教大数)

山田 和彦 (s 53 教大農)

今回は、総会当日を時間の流れに従って紹介したいと思います。

◆総会準備(九時～十時)



受付設営後、名札を並べているところです。向こうでは、会費受領の準備の最中です。

加藤事務局長以下、事務局は九時から会場設営や受付準備に取り掛かります。九時半に最終打合せをして、分担場所に移動し、作業に入ります。その間にも、役員が次々といらつしやいますので、役員の方々の受付や案内から仕事が始まります。

なお、今年度から事務局入りした鈴木孝幸氏(H 4 筑三情)は、事務局で初めての平成卒のスタッフで、撮影を担当しました。



役員会は6階の会議室などで行われていましたが、矢野会長の時から総会会場で行われています。

◆役員会(十時～十一時)

当日の日程や総会次第についての確認、提案事項の了解等が、例年の主な内容となっています。

今回は、それに加えて、本部における産業人倶楽部の発足や茗溪創基百五十年の事業や活動について報告がなされました。



向かって左から加藤事務局長(現会長代行)、川田理事、矢野会長、大畑代行(現会長)。川田理事から、茗溪会本部の現況や新たな事業について報告がなされました。また、矢野会長が先の定時総会で理事に選出されたことが報告されました。

◆総会(十一時～十二時)



産業人倶楽部の立ち上げなど、茗溪本部の新たな動きを紹介し、茗溪会の発展への団結を呼びかける矢野会長。同窓なくして名門なし。同窓が伝統を守り育て、大学を名門にしていくのですね。

総会には五十余名が参加し、山崎紀彦氏(s 53 教院農)の総合同会により会が進み、玉井正史(s 56 筑一人文)議長の下で、すべての議案が満場一致で可決されました。

◆講演会(十二時～十三時)

総会に続いて講演会が開かれました。講師は野中忠彦氏(s 37 卒 教物)。昨年、総会に初めて参加された氏が日本初の大ロケットの打ち上げクルーだったことを懇親会で伺い、それが縁で、講演をお願いしたという経緯があります。

講演題は、「種子島大型ロケット打ち上げと飛行安全管理」



静止衛星とその飛行安全システムや飛行体の破片の落下域についての説明をしているところです。

宇宙開発事業団が発足したのは一九六九年。東名高速道路の開通と同年でした。同氏はその三年前に日本電子開発株式会社(第一期の社員として入社しています。コンピューター・ソフトウェアの開発に係る人生がここから始まったようです。

ロケット飛行における安全システムの開発と運用の研究に、一九七三～一九八六年の十三年にわたって係わり続けました。その後、一九八六年からは教育の分野に移り、衛星による双方向の教育システムの開発に携わっています。

このように、日本におけるソフトウェア開発の先駆けとして活躍されてきた同氏の講演は多岐に及んでいました。



若手に話しかける加藤代行と中野氏。偉ぶらず気さくに。これが茗溪の気風ですね。

懇親会は六十余名の参加者が、中野久美子氏（s 57 筑体）の軽やかな司会進行で、明るく賑やかな時を過ごしました。大畑会長の挨拶、川田本部長のご挨拶に続いて、矢野前会長の乾杯の音頭によって歓談が始まりました。今年、若手の企業人や来年度から県内の教職に就くことが内定している筑波大卒生も参加し、楽しい時間を過ごすことができました。

◆懇親会◆(十三時半～十五時)



車椅子での参加でした。ご子息(左)が付き添われていましたが、雨の中大変だったと思います。

八木沢亮氏（s 23 高師理二）は最年長の参加者でした。当日は悪天候で朝から大雨でした。心配する家族を押し切って、ご参加いただいたと聞き及んでいます。

先輩は心優しい。緊張気味の若い後輩にビールを注ぎ話しかける。これも茗溪の気風。



「私は、鶴川、川田、清水、三人の支部長(会長)の下で神奈川の茗溪に係らせていただきました。お二方の《川》が茗溪の《水》となり、矢野を育ててくれました。大畑会長は《野》に畑を成し、絆を大きく実らせてくれると思います。」

(矢野前会長の乾杯の音頭より)

来年度の神奈川茗溪会総会

七月二十七日(土)



またお会いしましょう。久しぶりに会いましょう。この二つの出会の会にしましょう。細谷俊一氏（s 47 教生化工）の爽やかな挨拶で盛会裡に閉じました。



大石氏(県立城山高校長)は学生服のいでたちです。「それどうしたの?」と尋ねたら、「生徒から譲り受けた」とのことでした。

恒例の『宣揚歌』は大石進氏（s 56 筑体）のリードにより、同窓の輪を左右に揺らしながら謳いあげられました。



会員の皆様より

今年も総会の案内に多数のご返信をいただきました。ありがとうございました。頂戴したお葉書の中から紹介させていただきます。

▼二〇一七年『ベシックジーニアス英和辞典第二版』の語源欄を執筆しました。
(林信孝様 s 51 教文言語)

▼総合教育センターで勤務していた時に、たくさんの方の茗溪会の方がいらしたのだと驚きました。
(川地啓文様 s 54 筑二生)

▼平塚湘風高校で十年目、現役最後の年となりました。ウェイトリフティング部の顧問の座を引き継ぐとしています。一方で、ラグビーのレフリーは現役で続いています。先日全国七人制大会の決勝トーナメントに二十代のレフリーと共に名を連ねました。
(加藤善久様 s 56 筑一社)

▼現在、ジャカルタに駐在。当地でも茗溪の同窓会をやっています。(遠藤滋様 s 58 筑三社工)

▼学生時代を回顧しています。第一に思い出されるのは筑波の寮生活です。
(大野敬明様 s 61 筑院教育)

▼知人は故清水進一さんしかなかったのですが、会報は興味深く読んでいます。

(佐藤徹様 s 46 教経)

▼第四十五回ホノルルマラソンに単身で参加。完走。地域の健康運動指導員として活躍。ハーモニカサークル所属。演奏会、施設訪問等の活躍をしています。

(高見澤隆様 s 37 教体)

▼傘寿にて未だ求める剣の道。我が人生、輝き満ちる。

(福本修二様 s 36 教体)

▼体操教室や緑地をめぐるハイキングに参加。体力の維持と旧友との交流に努める昨今です。

(神宮義章様 s 34 教農)

▼毎年一か月ドイツに滞在し、オペラやオーケストラを観ています。元気なうちに神奈川茗溪会にも行きたいです。

(梅沢康信様 s 33 教哲)

▼齢と共に水墨画の細かい筆使いが心もとなくなってきました。「年賀の納め時かな」と仲間が「いま辞めたらほんとに描けなくなる」と、大小の刷毛を使ってもどれだけでも多くの人の助けを受けてきたことでしょう。人と人の係わりを改めて感じました。

(岸本秀治様 s 31 教法政)

教員採用二次試験対策講座

神奈川県教員採用試験で一次試験を通過した筑波生を対象に、八月一日(水)終日、二次試験対策講座を開講しました。

昨年度から茗溪会館を利用させていたでいて、試験対策に取り組んでいます。採用試験の要点を確実に伝え、学生個々の力量に応じながら、その進路実現を図るとともに、茗溪人としての意識も育みたいと考えて実施しています。筑波大学を通して、三名が参加しました。

午前中は、模擬授業の指導、午後から面接指導をし、最後に、受験上の注意をして終了しました。また、当日参加できなかった学生に対し、メールを通じて指導案の指導をしました。

結果として四名中三名が二次試験の合格となりました。

採用試験をめぐる新たな動き

茗溪会本部の教職研修グループと筑波大学との間で、教職を目指す筑波生に対する支援について協議をしているところですが、こうした二次試験対策について関東地区として取り組みなにかという話が起きつつあります。神奈川茗溪会が取り組んできた支援モデルが関東一円に広がるうとしています。

文責 大畑多津雄

追悼のつどいに参席して

九月一日、茗溪会で行われた「追悼のつどい」に、理事として参席させていただきました。

献茶から始まった追悼式は、参列者が追悼者二百二十三名の同窓に献花をして閉式となりました。厳かで、しかし心温まる空気に包まれた式でした。



茗溪会館地下1階の追悼式場 参列者が献花をしています。

その後、二階「茗溪の間」で懇談会が行われました。二十二家族三十九名の遺族の方々の懇談でした。六つの丸テーブルに遺族の方々と理事、八名ずつの構成で、私は農学部同窓の席でした。「式が終わって、お折詰をいただいて帰るものだとばかり...まさかこんなに丁寧なおもてなしをいただくとは思っていませんでした。」

九月一日、茗溪会で行われた「追悼のつどい」に、理事として参席させていただきました。献茶から始まった追悼式は、参列者が追悼者二百二十三名の同窓に献花をして閉式となりました。厳かで、しかし心温まる空気に包まれた式でした。

参加されたほぼ全員が教職者を故人にもつ方々でした。中には教え子として、遠路はるばる参加された方もいらっしゃいました。故人の関係の方々がお一人づつ故人を偲んで、お話をされました。みなさん、口をそろえたように、故人の矜持ある頑固さ一徹さを述べられ、つどいに参列して、ようやくその意味が分かったとおっしゃっていました。

参加されたほぼ全員が教職者を故人にもつ方々でした。中には教え子として、遠路はるばる参加された方もいらっしゃいました。故人の関係の方々がお一人づつ故人を偲んで、お話をされました。

文責 矢野正人

親睦ゴルフコンペの開催

第二回神奈川茗溪会親睦ゴルフコンペが、十一月二十二日に、秦野の「東京カントリー倶楽部」(秦野市寺山一四五〇)で行われます。今年は、総会で参加を呼びかけ、日時と場所の決定後に再度参加確認をしてメンバーを決定しました。

参加予定者は十二名で三組のコンペとなります。これまで触れ合う機会がなかった年齢も業種もまちまちの同窓がゴルフを通して和気藹藹、楽しく交流をする。これが趣旨です。

民間企業、行政、教員など業種の壁を越えて茗溪人が集い、楽しく交流ができればと願っています。

来年も総会で同時期のゴルフコンペを案内いたしますので、その際には奮ってご参加いただきますよう、お願い申し上げます。



総会で、ゴルフコンペの案内をする幹事達。
左から、新木康稔氏(s41 教体)、大辻昇氏(s42 教総農)、大畑会長